

○長崎縣對馬國上縣郡佐須奈村大字佐護

天神多頭神社

郷社

祭神 建彌巳之命

創建年代及び由緒等詳ならずといへども、神名帳考證に「天神多頭麻命神社、今三根に天神と云ふ神あり、此山三根第一の高山にて、今世建立したる體に非ず、アマカミを今誤て音にてテンシンと云ふなるべし、栲幡千姫命、日本紀云、高皇產靈尊之女栲幡千々姫、按高魂尊者、津島縣直祖也、麻姫也、頭與千音通、非多久都玉命也、姓氏錄云、神魂命子多久都玉命」と云ひ、神社叢錄には「天神多頭多麻命神社、天神は阿米乃加美と訓べし、多頭多麻は假字也、祭神明か也、佐護郷湊浦村に在す、今主基宮と稱す、當國下縣郡多頭多麻神社、頭注に、下の多字諸本なし、今按を以つて補ふ」といひ、次に神位を擧げ「三代實錄、貞觀十二年三月五日丁巳、授對馬島天多久都麻神從五位上」とあり、神祇志料によれば、天神多頭多麻命神社（按本書、天の下に神の字ありて、多麻の多字なし、今三代實錄に據りて神字を削り、多字を補ふ、今下縣郡佐護郷湊村天道山に在り、蓋神魂命の子天多久豆玉命を祭る」と云ひ、末に貞觀の叙位を擧げたり、而して共に對馬國上縣郡十六座の一に列せり、又太宰管内志に「天神多頭麻命神社、延喜式に上縣郡天神多頭麻命神社あり、天神多頭麻命は阿米乃加美太俱豆能美許登とよむべし」（一本には多頭多麻とあり、此神の御名の義いまだ考へず、下縣郡多頭多神も是と同神なるを、文字の足らざるは落ちたるか、又之より別神なるかしらす、さて姓氏錄左京神別に、瓜工連は神魂命の子、多久都玉命三世、天仁木命之後世とある是なるべし、又今の二位郷といふ名も、元は仁伊にて、仁木の音便よりうつりたるにはあらぬか）、さて三代實錄十七卷に、貞觀十二年三

月五日丁巳詔授對馬島天神多頭神從五位上とあり（下縣郡多頭多神の事は別に見えたり）、又玉勝間に、天神多頭麻神社は佐護郷湊村にあり、神階從五位上、また主基社とも申す、又式考證に、云々、又對馬圖に、天神多頭麻神社は祭神神魂御子神なり、佐護郷湊村にあり、いづれか正しからむ、なほよく考ふべし」とあり、共に本社を云へたるが如きも、社傳等の釋ぬべきなければ、姑く附記して後考を俟つ、明治七年六月郷社に列せらる。

社殿は假殿のみにして、境内坪數千五百十坪（官有地第一種）を有せり。

例祭日 六月二十三日

神價幣帛料供進
指定年月日

會計法適用
指定年月日

氏子戸數 六十六戸
崇敬者員數 未詳